

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：1 農作物等有害鳥獣被害対策防止事業補助金(農政課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>現行どおり</p> <p>※拡充1票 現行どおり12票</p>	<ul style="list-style-type: none"> 採択数が年度によりバラつきがあるが、荒廃農地拡大防止の点で効果が認められる。 予算を下回る申請件数となっている。適切な額であるか検証するとともに、周知方法や制度上問題がないか確認が必要。 有害鳥獣の調査等、補助金の効果検証が必要であると考えます。 鳥獣被害拡大の問題は多く存在しており、制度の周知と活用により、必要な人が申請できる仕組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進のため広報活動の充実を図るなど、制度の周知を徹底していただきたい。 防護柵に係る費用への補助に加え、鳥獣被害対策への助言などの支援も必要ではないか。 終期設定により、定期的に見直しを行う中で、今後、防護柵以外にも、有効な対策方法が開発されたり、見つかった場合、この補助金の対象も、柔軟な対応を検討していただきたい。 農業従事者のことを考え、被害防止の強化が今以上に図られるようお願いしたい。 補助金の対象とならない、防護柵100m以下の個人の方でも被害を受けている方がいると思われる。補助額を少なくし、防護柵100m以下も対象とするなど、被害防止対策の促進をして欲しい。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>現行どおり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後も「佐久市ホームページ」や「広報佐久(サクライフ)」による周知徹底を実施するとともに、認定農業者への集まりなどの機会に周知し必要な人が使用できるように努めてまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用の促進を図るため、農業者に個別に案内を配布するとともに、広報佐久(サクライフ)や市ホームページ等を活用して、周知徹底に努めてまいります。 鳥獣被害対策につきましては、現在鳥獣の被害がある場合は、猟友会と協力し檻や罠の設置による対応を実施しております。 防護柵以外の有効な手段がある場合、検討し補助内容の見直しを図ります。 防護柵につきましては、家庭菜園規模を対象とせず、営農を行っている農地を対象としているため、今後も当面の間は、100m以上としていきたいと考えております。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称 : 2 農業用廃プラスチック適正処理事業補助金(農政課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>現行どおり</p> <p>※拡充2票 現行どおり10票 手法等の見直し1票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズが認められ、行政目的(再利用・環境汚染防止)の達成手段として妥当性がある。 ・農協に一括して補助を出すことが適切であるか、処理業者を含めて検討の余地がある。 ・再利用や生分解プラの活用など、時代に合った取組が必要と考える。 ・処分費用が増加していくと予測されるため、今後の処分のあり方を考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決に向け適切な内容だと思ふ。現行どおり進めてほしい。 ・広報活動を充実し周知を進めてほしい。組合員以外の市民にも、廃プラスチックの適正な処理について、周知を図る必要がある。 ・取りまとめが農協である理由は説明を受けたが、「周知、取りまとめが適している」と決めつけることなく考える必要があると思う。 ・環境問題を考えた時、拡充しても良いかと思う。 ・廃プラスチックの処理が適切になされているか、確認する必要がある。 ・廃プラスチックの再資源化等に、更に取り組んでいただきたい。 ・脱プラスチック社会の観点から、マルチを使用しない農業やプラスチックの代替となるものに補助金を出すなど、前向きに検討していく必要があると思う。 ・環境にやさしい農業へ取り組んでいる方にも対象を広げるなど、行政ができるところから積極的に推進して欲しい。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>現行どおり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業者は、これまでの取り組みの経過もあることから引き続きJA佐久浅間とする上で、農業者に環境問題の意識づけを促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題の観点等を踏まえて、農業用廃プラスチックの適切な処理について、周知啓発を図ります。 ・現行どおり補助を継続していく中で、周知と取りまとめについてはより効果的な方法をJA佐久浅間と相談しながら検討していきます。 ・周知方法については、市の広報媒体も利用するなどの工夫を検討していきます。 ・生分解マルチなど農業用プラスチックの代替については、国などの機関で研究している情報を収集して研究してしていきます。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称 : 3 故郷ふれあい交流事業補助金(農政課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>現行どおり</p> <p>※拡充1票 現行どおり9票 手法等の見直し3票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前には利用者があったので、交流人口の増加のため、補助金の意義はあると思う。 ・補助金活用に向けた周知や広報が必要。公共事業として幅広い募集が必要。 ・アフターコロナの新たな活用について検討が必要。 ・コロナ期を除きコンスタントに活用されている。効果が第三者に見えにくいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市住民との交流を主とするのであれば、ケーブルTVや広報紙でのPRではズレている。ホームページを充実させるべき。 ・周知不足・PR不足の感がある。広報活動を充実し市全体に周知するとともに、成果についてもPRすべきだと思う。 ・具体例等を公表することで、新規申請の増加につながるのではないかとと思う。 ・農林業体験を通じた交流への補助であれば、名称を変えた方が良いと思う。 ・アフターコロナの実績に期待したい。 ・コロナ禍から脱却しつつある今、都市部からの住民受け入れを一層推進し、規模の拡大が必要だと思う。面白い企画を考えていただきたい。 ・コロナの影響もあると思うが、補助金を受け取る人は減少しているようなので、他事業への転換を考える必要があるのではないか。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>現行どおり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現行どおり補助を継続していく中で、申請者の確保が課題と考えられるため、周知方法等を検討していきます。 ・アフターコロナの新たな活用について検討を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市住民に向けては、ホームページやSNS等を用いて佐久市の魅力、事業内容及び事例等を発信するなど、農業体験等を通じて、補助事業者との交流が図られるよう、周知方法を検討します。 ・市全体に向けては、広報佐久(サクラライフ)やケーブルテレビなどにより、事業活用の周知を図ります。 ・補助金の名称についても、申請者が内容がイメージしやすいよう、変更を検討します。 ・農業体験を受け入れている農業者等の意見を聞きながら、アフターコロナの需要に見合った事業内容等を検討していきます。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：4 「暮らしとしての農業」農家創出事業補助金（農政課）

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>現行どおり</p> <p>※現行どおり11票 手法等の見直し1票 縮小1票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後の利用者があれば意義があると思うが、工夫は必要と考える。 ・活用の拡大に向けた検討が必要。 ・予算に対して申請が少ない。原因が周知にあるのか、内容にあるのか、分析が必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金活用に向けて、周知に努めてほしい。利用者が少ないので、大々的なPRや、場合によっては、対象者の拡大も必要と考える。 ・継続してもらいたい。各農家の繁忙期と重なる可能性もあり、応募が少ないと思われる。採択後、市からのフォローなどがあれば周知に含めるとよいかと思う。(採択事業、イベント等の周知など) ・農業体験による農業従事者への支援は、今後必要性が増すと考える。 ・アフターコロナの実績に期待したい。 ・市民向けに農業を広めることを目的とするのであれば、個人や団体に任せきりにするのではなく、ある程度の戦略(ターゲットや方法、人数など)が必要ではないか。農協などとの連携も必要と考える。 ・「佐久っと支援金」、「故郷ふれあい交流事業補助金」と合わせて、課題解決のための活用を検討してほしい。 ・圃場の購入については、使えないとのこと。「暮らしとしての農業」と謳うのであれば、購入も認めるべきと思う。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>現行どおり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現行どおり補助を継続していく中で、申請者の確保が課題と考えられるため、周知方法等を検討していきます。 ・アフターコロナの新たな活用について検討を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業募集段階での周知に加えて、採択事業やイベント等の周知を行い、市民が参加しやすいようフォローアップを検討します。 ・事業内容や過去の事例等についても、広報佐久(サクラライフ)とケーブルテレビなどを活用し、市全体に周知を図ります。 ・農業体験を受け入れている農業者等の意見を聞きながら、アフターコロナの需要に見合った事業内容等を検討していきます。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称 : 5 果樹生産施設整備事業補助金(農政課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p style="text-align: center;">完了</p> <p>※手法等の見直し2票 完了11票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹産地発展に貢献している。 ・今後のニーズを把握する必要がある。 ・補助率10分の1以内では少なく、動機づけになりにくいと思う。 	<p><u>・一定の推進が図られたという評価であり、終期にて終了すべきだと思う。新制度が必要であれば別途検討してほしい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな技術が導入される際には、新制度の創設を望む。よりニーズの大きいものに補助をしてほしい。 ・果樹振興は佐久において重要な施策と思うので、ニーズを把握し、新たな制度を検討してほしい。 ・PR不足感がある。10分の1の補助率は少ないと思われるので、場合によっては見直しが必要ではないか。 ・補助金だけでなく融資のような方式も採用できるとよいのではないか。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p style="text-align: center;">完了</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の予定のとおり完了とする。 ・農作物の生産振興にあたっては、新たなニーズ把握に努めます。 	<p><u>・りんごの高密度栽培の導入など、新たに技術の導入について、一定の推進が図られたため、完了とします。</u></p> <p><u>・また、新たな制度の創設にあたっては、JA佐久浅間など関係機関と連携を密にしてニーズ把握を行うとともに、本補助金の課題等を分析し、より良い制度となるよう検討を進めます。</u></p>

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：6 佐久地区労働者福祉協議会補助金(商工振興課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>手法等の見直し</p> <p>※現行どおり3票 手法等の見直し10票 縮小2票</p>	<ul style="list-style-type: none"> 労働者の福祉の充実と安定は大事なことである。より良い視点で見直すべきである。 達成率は低い、新型コロナウイルス感染症5類移行により、今後の活用が期待される。 労働者間の交流を促進する意義があるのか、何を目的に交流を促進しようとするのか疑問。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の取組方針にあるよう見直しを図り、自動的に補助金を支出するのではなく、交付条件や繰越金の返還条項の設定などを行っていただきたい。また、終期設定は適切だと思う。 高校生を対象としたセミナーや労働者の交流は必要であると考えてるので続けてほしい。 新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、効果的な活用を期待する。また、イベント運営等の福祉増進の機会も設けやすくなったため、交付対象の間口を広げるなど、利用促進のための見直しを図るとともに、周知にも注力していただきたい。 労働環境改善のために知恵を出し合うなど、働きやすい職場づくりのための活動が必要ではないか。 時代に合った補助金交付とするため、必要かどうかを含めて、再度、検討すべきかと思う。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>手法等の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、制度設計を改めます。 補助金の効果検証を行うための見直しを図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在でも、実質的に対象事業を限定して補助金を交付していることから、個別の団体への運営補助金ではなく、いただいたご意見を参考に、労働者の福祉向上や交流に資する事業目的に対しての補助金に改めることを検討します。 定期的に効果検証等を行うため、終期設定を行います。また、団体補助金ではなく事業補助金とすることで、繰越金の返還条項は不要となります。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：7 商工業活性化事業(商工会議所・商工会運営事業)補助金(商工振興課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>手法等の見直し</p> <p>※ 現行どおり2票 手法等の見直し9票 縮小1票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準を明確化するなど、何を目標としている事業への補助金なのかを分かりやすくしてほしい。補助金の成果が見えにくい。 ・コロナの3年間はイレギュラーだと思う。アフターコロナの状況を注視して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の取組方針にあるよう、見直しのため終期を設け、交付条件や繰越金の返還条項の設定などを行っていただきたい。 ・高額なので効果検証を行うなど支出を見直し、適正化を図っていただきたい。 ・実情に応じた見直しは必要と思われるが、補助先と十分協議をされたい。 ・アフターコロナのタイミングなので、繰越金を含め予算が適切に執行されることを期待する。商業振興は大きな課題のため利用促進も含めて対応して欲しい。 ・物価高騰や人手不足、後継者問題、賃上げ養成など新型コロナウイルス感染症5類移行後も様々な課題に直面しており、商工会に財政支援することで、商工業者の活性化につなげて欲しい。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>手法等の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、制度設計を改めます。 ・補助金の効果検証を行うための見直しを図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に効果検証等を行うため、終期設定を行います。また、対象経費や交付条件、繰越金の返還条項など、市の運用規定上適正な支出となるよう、補助先と協議の上、制度設計を見直します。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：8 小規模事業者経営指導事業補助金(商工振興課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>手法等の見直し</p> <p>※現行どおり1票 手法等の見直し11票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者へ総合的な経営指導を行うことを目的とし、事業・活動別相談を行うことにより一定の効果を発揮している。 ・小規模事業者に対する経営指導員の指導は多岐にわたり、とても有意義に感じる。特にコロナ以降は、移住創業案件も増えており、地域活性化の一端を担っている。 ・補助金のあり方をきちんと整理しておく必要があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の取組方針にあるよう、見直しを実施するため終期を設け、交付条件や返還条項の設定などを検討していただきたい。一定の効果について、判定基準を明示していただく方が分かりやすいと思う。 ・アフターコロナで状況が変化している現在、見直しが必要であると思う。 ・より具体的に例示するなど、使途として納得できる補助事業としてほしい。大きなお金が動くことへの説明義務がある。 ・商工会会員以外に対するサービス(相談やセミナー)など、たくさんあると思われるので、その利用者数など公開すると分かりやすいと思う。 ・商業活性化事業補助金(運営経費に対する補助金)と、差別化しなくてもよいのではないかと思う。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>手法等の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、制度設計を改めます。 ・補助金の効果検証を行うための見直しを図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に効果検証等を行うため、終期設定を行います。また、対象経費や交付条件、繰越金の返還条項など、市の運用規定上適正な支出となるよう、補助先と協議の上、制度設計を見直します。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：9 工場等用地取得・設置事業補助金(商工振興課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p style="text-align: center;">手法等の 見直し</p> <p>※現行どおり5票 手法等の見直し9票 縮小1票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致は、雇用創出、市財源確保に寄与しており、効果が認められる。 ・年度による実績の増減はあるものの、利用浸透は図られている。 ・労働人口減少期において、外部からの企業誘致は適切な事業なのか考える時期かと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な補助金だと思う。終期設定を行い、時代の変化に対応した市民に成果のある補助金となって欲しい。 ・工場用地を探している事業者はとても多い。用地が見つからず、本補助金の利用が進まない側面もあるように思う。引き続き、補助継続により投資促進をお願いしたい。 ・「企業立地雇用支援事業」と親和性のある内容なので、統合しても良いのではないかと。 ・労働力不足にも対応し得る取組をお願いしたい。 ・労働者の今後の情勢(高齢者、外国人技能実習生制度の拡大)やニーズに応じた、補助金の見直しが必要だと感じる。終期を定めて適切に実施して欲しい。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p style="text-align: center;">手法等の 見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化を考慮しつつ、市内の工業振興や雇用の促進、地域経済の活性化の目的を達成するため、制度内容を見直します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働力不足が深刻化している中、企業ニーズや立地動向、市内企業の設備投資などの動向を、県や佐久商工会議所、佐久産業支援センターなどの関係機関から情報収集し、時代に即した補助金となるよう企業立地雇用支援事業補助金とともに見直しを図っていきます。 ・また、一定の期限を設ける中で、補助金の成果が得られるように制度の在り方について、適時適切な見直しに努めます。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：10 企業立地雇用支援事業補助金(商工振興課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>手法等の見直し</p> <p>※拡充2票 現行どおり3票 手法等の見直し10票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致の施策は必要だと思う。 ・用地取得の利用件数がある一方、本件の件数は比較的少ないと感じている。理由について深掘りする必要がある。 ・人材不足の現状、時代に合った補助金にしていく必要があると考える。 	<p>・必要な補助金だと思う。終期設定を行い、時代の変化に対応した市民に成果のある補助金となって欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代やニーズの変化に合わせた予算規模等の見直しを行って欲しい。 ・企業誘致を市の発展につなげるには、有効な補助金と考える。積極的な広報活動があるとよいのではないか。 ・「工業用地取得・設置事業補助金」と親和性のある内容なので、統合しても良いのではないか。 ・人手不足の現状を踏まえれば、設備投資＝雇用というのは時代にそぐわない。工場内省エネ自動化など高度化投資への補助、支援の方が時代に合うのではないか。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>手法等の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化を考慮しつつ、労働者不足の実情を踏まえ、制度内容を見直します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働力不足が深刻化している中、企業ニーズや立地動向、市内企業の設備投資などの動向を、県や佐久商工会議所、佐久産業支援センターなどの関係機関から情報収集し、時代に即した補助金となるよう工場等用地取得・設置事業とともに見直しを図っていきます。 ・また、一定の期限を設ける中で、補助金の成果が得られるように制度の在り方について、適時適切な見直しに努めます。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：11 猫繁殖制限手術費補助金(環境政策課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>現行どおり</p> <p>※拡充2票 現行どおり12票 手法等の見直し1票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディングを通じた財源確保は広報としても有効だと考える。 ・利用浸透が図られており、必要な補助金だと考える。 ・飼い主のいない猫が近所に増えているように感じる。本補助金の効果的な活用が求められる。 ・社会コストとして行政で負担するしかない部分と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も周知を進めていただき、適切に執行されることを期待する。 ・生活環境を守るために必要な制度である。財源確保のためクラウドファンディングの益々の有効利用をしていただきたい。 ・飼い主のいない猫がいる限り、継続する必要があると思う。クラウドファンディングの財源によって実施数を上げて効果を狙うのは良いと思うが、クラウドファンディングに依存しては、財源を安定的に確保できない可能性もあり、終期に合わせて、予算の見直しを検討しても良いのではないか。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>現行どおり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きクラウドファンディングを有効活用し、補助事業を進めていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現行どおり補助を継続していく中で、補助制度の周知の強化を図るとともに、財源確保のため、引き続きクラウドファンディングを行い、効果的な補助事業を行っていきます。 ・「クラウドファンディングに依存しては、財源を安定的に確保できない可能性もあり、予算の見直しを検討しても良いのではないか」といったご意見をいただいておりますが、本事業に対するクラウドファンディングによる支援額は年々増加しており、本事業への支持が拡大していると考えられることから、見直しについては慎重に検討していきたいと考えております。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：12 太陽光発電設備・蓄電システム導入補助金(環境政策課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>現行どおり</p> <p>※拡充4票 現行どおり10票 手法等の見直し1票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電も時代とともに設備などが変わってきている。移り変わりの激しいジャンルのため、適切な状況の把握が必要だと考える。 ・住宅への設置ニーズはある。電力価格も高騰しており、今後の推移も注視する必要がある。 ・再エネ普及に効果が認められる。 ・太陽光発電設備が整ってきている現状で、蓄電池の需要が高まってきていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現行どおりで良いが、蓄電システムに重点を置いた補助にした方が、ニーズに合っていると思う。 ・太陽光発電設備の既設住宅に対する、蓄電システム導入への補助は早急に検討し、実施すべきだと考える。 ・県の既存住宅エネルギー自立化補助金と内容が重複している部分があり、重複箇所については、見直しても良いのではないかと思う。 ・環境にやさしい取組が数10年後にごみ問題となつては、本末転倒なので、国の検討会を注視していただきたい。 ・緑地や農地に立つメガソーラーには反対。この補助金を拡充して欲しい。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>現行どおり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現行どおり継続する中で、太陽光発電設備が設置されている既設住宅へ蓄電システムの補助ができよう制度の見直しについて検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「太陽光発電設備の既設住宅に対する、蓄電システム導入への補助の実施」というご意見につきましては、現行どおり継続する中で、太陽光発電設備既設住宅への蓄電システム導入に対する補助ができるよう検討していきます。 ・「県の補助金と内容が重複している箇所は見直しても良いのでは」というご意見につきましては、県と市の補助金と併用することで、初期投資の負担がより軽減され再生可能エネルギーの普及促進に繋がっていることも踏まえ、いただいたご意見を参考にしながら、今後必要に応じて見直しを図っていきます。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：13 省エネ家電製品普及促進事業補助金(環境政策課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>現行どおり</p> <p>※拡充1票 現行どおり12票 手法等の見直し2票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネの意識啓発に対し、効果のある補助金だと思う。 ・件数が伸びており、達成率も高く、一定の効果が認められる。 ・周知・啓発活動が重要だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果分析に基づく市民への周知により、省エネ家電の推進を図って欲しい。 ・市内事業者のセールスポイントの一つに、この補助金が寄与している意味からも継続していただきたい。 ・省エネ家電(例えばエアコンなど)の種類を増やす、断熱性能の高い住宅への補助など、エネルギー消費を抑える様々な施策も検討して欲しい。 ・温室効果ガスの更なる削減が必要と考える。地球温暖化ストップへの努力を。 ・県の信州省エネ家電購入応援キャンペーンと重複していると思う。市内消費の向上に効果があるが、対象物を変えるなど差別化を図った方が良いのではないか。 ・市内に本店を有する事業所以外についても、補助金額をもう少し増やすべき。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>現行どおり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ家電の普及のため周知を進めます。 ・補助対象品目の拡充について検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「効果分析に基づき省エネ家電の推進を図って欲しい」というご意見につきましては、温室効果ガスの削減目標に向け、補助金を活用した削減効果向上の周知の強化や事業の評価、分析を行う中で、必要に応じ削減効果が大きい家電製品を対象に加える等の見直しを行い、省エネ家電製品の推進を図っていきます。 ・「省エネ家電(例えばエアコンなど)の種類を増やすなど、エネルギー消費を抑える様々な施策も検討して欲しい」というご意見につきましては、省エネルギー化の推進を図るため、消費電力量の削減効果が大きい省エネ家電製品を選定し、補助対象品目の拡充ができるよう検討します。 ・「県の信州省エネ家電購入応援キャンペーンと重複していると思う。市内消費の向上に効果があるが、対象物を変えるなど差別化を図った方が良い」というご意見につきましては、県は指定された製品に対するポイント還元制と制度設計が異なること、また県のキャンペーンは令和5年度終了する予定であることから、検討する予定はありません。 ・「市内に本店を有する事業所以外についても、補助金額をもう少し増やすべき」というご意見につきましては、補助額の差を設けることにより、市内への経済効果を高めたいとしていることから、現状の補助額で維持していきたいと考えております。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：14 電気自動車購入促進事業補助金(環境政策課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>現行どおり</p> <p>※拡充1票 現行どおり13票 手法等の見直し1票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目的の効果が認められる。 ・実績が3台から13台と増加しており、今後も増加していくと思われる。利用浸透していくか、今後の推移に注目したい。 ・思ったより申請件数が少ない。啓発も踏まえた補助金だと思うので、広報を含めた周知が必要。 ・補助金への市民理解と周知が行き届いていないような現状だと思う。 	<p>・今後、申請が増加してくる補助金だと思うので、効果の適切な測定と、広報含めた啓発活動を推進していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの程度利用が進むか、数年間の推移をみていきたいので、現行どおり継続をお願いしたい。 ・購入に対する補助も大切だが、電気自動車の充電施設を増やす方向への検討もお願いしたい(例えば、市立図書館や他の市の施設に設置を増やす等)。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>現行どおり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・申請件数を増加させるため、周知方法等を工夫し事業を進めていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「申請が増加してくる補助金だと思うので、効果の適切な測定と、広報含めた啓発活動を推進していただきたい」というご意見につきましては、市ホームページや広報佐久(サクライフ)への掲載、環境政策関係の補助メニューをまとめたチラシを本庁、支所、イオン、市内自動車店などへ配布し周知するとともに、イオンに設置されているデジタルサイネージの活用や「FM佐さくだいら」への出演のほかイベント等へのPR活動など、積極的に情報発信し啓発活動の強化に努めていきます。 ・「電気自動車の充電施設を増やす方向への検討もお願いしたい」というご意見につきましては、電気自動車の普及状況を確認しながら検討を進めていきます。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：15 生ごみ処理機等購入費補助金(生活環境課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>現行どおり</p> <p>※拡充4票 現行どおり9票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活用件数も多く効果的な補助金である。 ・毎年度交付件数が増加しており、市民ニーズに応えていると思う。生ごみ減量に寄与しており、効果が認められる。 ・ゴミの削減を目指し、補助を促進してほしい。 ・補助金活用した後の追跡調査も必要では。 ・予算不足であれば、ニーズに従って拡充検討も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ処理に関する費用削減のためにも、生ごみの有効活用、生ごみの量を減らす必要性及び方策等について、更に周知すべきと考える。 ・購入したが活用されていない等の結果になっていないか、生ごみ減少に寄与しているかどうか、確認する調査も必要だと思う。 ・年々実績が増加しており、市民の意識が高くなっている。予算の増額をしてもよいと思う。 ・市民が使いやすい補助金であるため、もっと拡充させてほしい。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>現行どおり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金制度を単体として扱うのではなく、ごみ減量化推進策の一環として位置付け、生ごみ処理機等の普及を促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在策定中の第二次佐久市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画において、ごみ減量化・リサイクル促進の施策体系の中に本補助金制度をしっかりと位置付け、生ごみ処理機等の普及により期待されるごみの減量化の効果を明示します。 ・現在、広報佐久(サクライフ)・市ホームページ・FMラジオなどを用いて周知を行っていますが、今後はこれらに加えて、環境関連の諸会合や市衛生委員会の活動の際の紹介、来庁者への情報提供など市民への直接的な周知の機会を増やしていきます。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：16 保護司会補助金(福祉課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>現行どおり</p> <p>※現行どおり11票 手法等の見直し2票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的意義のある補助金だと思う。 ・保護司の重要性について、イメージがつきにくいと感じた。 ・社会的に(時代的に)福祉への補助金は、どんどん進めていく必要があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>今後も継続して、犯罪者更生、犯罪予防啓発、社会福祉増進に寄与していただきたい。</u> ・大切な補助金だと思う。保護司数の減少を踏まえ団体の活力としていただきたい。 ・保護司の重要性をもっと分かりやすくアピールしてほしい。重要な役割なのに市民に分かりにくくもったいない。 ・<u>大変な苦勞が伴う保護司の活動を継続していただくためにも、今後の担い手育成及び確保に資する見直しが必要だと思う。</u>

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>現行どおり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護司の活動が充実・活性化し、犯罪の予防や犯罪をした人等の社会復帰が促進されるよう、引き続き団体の運営を支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>現行どおり補助を継続していく中で、保護司のなり手不足の解消について意見をいただいておりますので、これまでの確保育成の取組を更に強化していくよう、団体と協働しながら取り組んでいきます。</u>

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称：17 特定住宅リフォーム補助金(断熱性能向上リフォーム)(建築住宅課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p style="text-align: center; font-size: 2em; color: red;">完了</p> <p>※現行どおり1票 手法等の見直し1票 縮小1票 完了10票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国・県の補助事業と重複しているものがあること、政府方針の一定基準を満たしていないこと等から必要性、有効性が低下している。 ・申請件数が落ち着いている現状を踏まえ、今後の方向性について検討が必要。 ・今後の国の動向を注視し、柔軟に対応する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国・県の補助制度が充実している現状から、完了の方向で良いと思う。国・県の類似補助制度を周知していただきたい。 ・断熱材を入れると暖かさに大きな差がある。「補助制度の再開について、国・県の補助制度の動向を注視し、必要に応じて検討する」ことについて、しっかりお願いしたい。 ・地球温暖化の低減のためにも断熱改修は、ますます重要になると考える。国・県の動向を注視し、検討をお願いしたい。 ・国等の政策に上乘せする形で制度化を検討してはどうか。移住を検討する際の佐久市のマイナスポイントは冬の寒さにあり、そうした対策を支援することにもつながると考える。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p style="text-align: center; font-size: 2em; color: red;">完了</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県の補助制度が充実しているため、市の補助制度は終期の令和5年度末で完了とします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引続き2050年カーボンニュートラルの推進に寄与して行くため、国・県の類似補助制度を周知してまいります。 ・国、県の動向を注視し、必要に応じ補助制度の再開を検討します。

令和5年度補助金等外部評価

補助金等名称 : 18 看護師養成事業補助金(健康づくり推進課)

◆行政改革推進委員会における評価結果

委員会としての評価	補助金等の現状について	現状を踏まえた評価 (今後どのように取り組むべきか)
<p>現行どおり</p> <p>※拡充1票 現行どおり8票 手法等の見直し3票 縮小1票</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の人数などに関わらず必要な補助金だと思ふ。 ・卒業生の市内医療機関への就職が少ない(減少している)理由は分析が必要。 ・奨学金制度は個別に直接的に届く支援であるため、必要だと思ふ。 ・医師会を通じた看護師養成事業(医師会設立の看護学校)を維持するという考え方は古くなりつつある。地域全体の看護の専門性を上げるという観点から事業を見直す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域の保健・医療の振興に寄与していると思われ、現行どおり継続で良いと思ふ。佐久市における看護師確保という目的であるが、卒業生のうち、佐久市の医療機関へ就職した者が10%~15%であることについて、実質的に確保するための取組等を考慮した方が良いのではないか。 ・佐久市への就職者が増える取組をお願いしたい。 ・補助金が効果的か、継続的に確認が必要と考える。 ・医師会への補助金というより、学生への奨学金として補助できないか。 ・養成事業者と看護師を目指す学生について、それぞれに区別した補助金が必要だと思ふ。 ・アフターコロナでも看護師確保は高齢化社会にとっては重要課題、積極的な看護師育成に取り組んでほしい。

◆評価結果を受けて現時点で考える、今後の対応方針

対応方針	今後の方向性	具体的に実施する内容等
<p>現行どおり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の確保を図るため、現行どおり継続しつつ、より効果的な補助制度となるよう、情報収集および研究を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業生の市内医療機関への就職が少ない」、「佐久市への就職者が増える取組をお願いしたい」、「実質的に(看護師を)確保するための取組等を考慮した方が良いのではないか」というご意見をいただいておりますので、まずは各所と調整および協議のうえ、より良い補助金となるよう検討するとともに、看護師の確保を図るための取組を進めていきたいと考えております。 ・「奨学金制度を設けるべきでないか」というご意見をいただいておりますが、現在、佐久市内2か所の看護学校では、奨学金等による学生への支援が行われており、市としてもこのような取組を後押ししていることから、引き続き、各看護学校と連携して、地域の保健・医療の振興を推進していきたいと考えております。